# 市町村議会

2日

惑いが広がった」と指摘した。米価が依然高騰している点

## 全世帯に給油クーポン

### 1万円、来月配布目指す

**潟上市**

12月定例会を開会。提出案件はクマ対策費などを盛り込んだ25年度一般会計補正予算案2件など計21件。このうち給油クーポン配布事業費を含む補正予算案1件を可決、クマ対策の補正予算の専決処分1件を承認した。会期は18日まで。

鈴木雄大市長は行政報告で、本年度のクマの目撃（11月30日現在）は過去最多だった23年度を288件上回る348件、捕獲頭数は13頭増の22頭だったと報告。安全対策として箱わな4基を購入するなどした対策費306万円は11月7日付で専決処分した。

2日に可決した補正予算は1億6478万円。市内全世帯に配布する給油クーポン1万円分の事業費1億5509万円など。国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」の一部を活用した市独自事業で、市内の給油所などでガソリンや軽油、灯油の購入に使える。クーポンは来年1月中の配布を目指す。

今後審議する補正予算案は1584万円で、累計は201億3448万円。クマ対策に449万円を計上した。クマの出没に伴って出動する鳥獣被害対策実施隊員の報酬を日額3千円から5千円に増額するほか、捕獲1頭につき1万円、処理1頭につき1万円を支払う。

（高橋秀明）

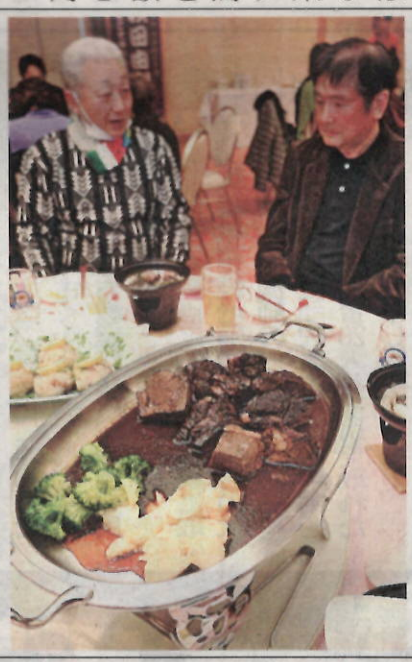
定め、『生産現場が先の見える農政』をぜひ実現してほし

## 秋田由利牛「まるごと」堪能

### 由利本荘安楽温泉　市民ら多彩な料理に舌鼓

本荘由利地域の名物・秋田由利牛を味わうパーティーが「いい肉の日」の11月29日夜、由利本荘市大堤下の安楽温泉で開かれた。市民ら約200人が参加し、多彩な料理に舌鼓を打った。

畜産や酪農、企業関係者らでつくる「秋田由利牛をまるごと味わいつくす会」（柴田



秋田由利牛を使った多彩な料理が並んだパーティー

上がった。

由利本荘市から参加した70代男性は「味は申し分なし。赤ワインの煮込みがおいしかった。参加した人たちが幸せそうな顔をしているように見えた」と話した。

（相沢一浩）

網を引き揚げ、港に戻る船＝男鹿市の北浦漁港

# ハタハタの姿なし

## 男鹿・北浦漁港　今季初 網の引き揚げ

### 漁師「しけ後が勝負」

今季もハタハタの不漁が予想される中、男鹿市の北浦漁港で2日朝、季節ハタハタ漁の網の引き揚げが行われた。今季初の作業を多くの漁師が見守ったが、ハタハタの姿は1匹もなく寂しい結果となった。漁師たちは「今後、しけが来てからの漁に期待したい」と一刻も早い初漁を待ち望んでいる。

午前7時半に定置網船「つよ丸」が港を出て、前日に仕掛けた網を引き揚げたが、漁師たちは淡々とした表情で帰港した。港に揚げた三つのかごには魚が入っていたが、アジやサバ、ヒラメで、ハタハタはゼロだった。

北浦の漁師は、一斉操業の前に共同でモニタリング用の網を仕掛ける。ある程度の水揚げがあれば、以降は各船の本格的な操業となる。

西方強さん(68)は「最初はこんなもんだろう。きょうは漁の練習という気持ち。数日しけが続くので、そこからが勝負だ」と気を引き締めた。

県は今季（9月～来年6月）のハタハタ漁獲量について「資源量がほとんどなく、漁獲はほぼない」と推定しており、厳しい漁が予想される。季節漁初漁日については、サンプルが少なく予測は困難とし、限られたデータによる参考として今月3日と算出している。

地元漁師たちによると、荒れ模様が予想される3、4日は漁に出るのが厳しい見込み。

（阿部拓郎）

アジやサバなどが水揚げされたが、ハタハタの姿はなかった

## イベント情報　地域情報

### あす

【男鹿市】

▼特設人権相談所＝4日午前10時～午後3時、船越コミュニティセンター、若美コミュニティセンター。

▼ファイトエアロ教室＝4日午後7～8時、市総合体育館。

【潟上市】

▼おはなしの広場＝6日午後1時半～2時半、市図書館。童話の会「紙ふうせん」による絵本の読み聞かせ。同館☎018・878・6688

▼ぬぐだまりふぇあ＝6、7日午前9時半～午後3時半、道の駅てんのう。キッチンカー、冬のフルーツフェアなど。道の駅てんのう☎018・878・6588

【大潟村】

▼特設人権相談所＝6日午前10時～午後3時、村公民館。秋田地方法務局人権擁護課☎018・862・1443

【井川町】

▼みなくるであそぼう＝6日午前10時～正午、みなくる。絵本の読み聞かせとホットケーキ作り。定員20組。申し込みはみなくる☎018・838・6913

情報提供、掲載依頼入力フォームへ

## 列島各地の話題

### 温泉街を「まごと旅館」に

**山口**

千年以上の歴史があるとされる山口県長門市の俵山温泉で、温泉街を一つの旅館と捉えて運営する「俵山まごと旅館」の取り組みが試験的に始まった。高齢化や人手不足で使われていない客室を、各旅館の垣根を取り払って活用するのが狙い。若い利用客も呼び込み、温泉街の活性化を図る。

山間部にある俵山温泉は古くから湯治場として栄え、1972年の入湯客は約72万人だった。旅行スタイルが団体から個人中心に変化するなどし昨年は約11万人。かつては40軒以上あった旅館も半数以下になった。

俵山温泉の多くの旅館には温泉施設がなく、宿泊客が外の温泉を利用する「外湯文化」が根付いている。地域に分散する空き家を活用し、一帯を点在型ホテルとするイタリア発祥の取り組み「アルベルゴ・ディフーゾ」が生かせると考え、まごと旅館の実証事業が10月から始まった。

山口県長門市の俵山温泉街

ＳＢＣの子会社「俵山クリエイト」が２旅館の計９室を借り、予約やチェックイン、客室の案内や清掃などを担当。若年層を呼び込むためアメニティーを充実させ、客室にマットレスやビーズクッションを置いた。

市などは33年に入湯客を20万人、観光客を30万人とする目標を掲げる。まごと旅館の宿泊客は泉質や街並みを評価したが「飲食店が少ない」という意見も出た。ＳＢＣの森広通隆さん(43)は「市などと協力して将来的にはカフェやレストランも誘致したい」と意気込む。

まごと旅館は当面は素泊まりのみで金曜一日曜と祝日の月曜に限定。１人8250円から。予約はホームページから受け付けている。

### 宿泊セット、熱気球運航検討

**山梨**

山梨県山中湖村と山中湖観光協会は、観光客向けの熱気球の運航を検討している。早朝を想定し、村内での宿泊と組み合わせたプランとして提供。富士山と、富士五湖の一つである山中湖を一望できる眺めを売りに宿泊者の増加を狙う。

村や協会によると、新型コロナウイルス禍以降、村内では団体客より個人や少人

客が増加傾向に

時間が短かった

するケースが目

泊につなげる方

いた。

VANTELIN KOWA

挑戦を続ける
カラダに。